

**ユネスコ無形文化遺産「和食」の保護・継承について
祖母、母親、若者等がそれぞれの意見を発信！！**

「和食の保護・継承を考える 三世代意見交換会」

～全国四会場の様子を YouTube にて 18 日より配信開始～

農林水産省では、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」について、今後、本格的な保護・継承に取り組むにあたり、昨年、「和食」の保護・継承に向けた検討会を立ち上げたところです。

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syoku_vision/keishou.html

本検討の課題点を明確化するため、今般、特に、次代の食を担う母親や若者等から、日常的に「和食」と“どのように接触しているか”“どう考えているのか”等、食生活の実態に即したそれぞれの視点から、「和食」の保護・継承についての意見交換会を、全国四か所(山形県、栃木県、神奈川県、長崎県)にて実施しました。

※2月18日(水)より、下記サイトで各会場の映像をYouTubeにて配信いたします。

https://www.youtube.com/channel/UCQITvqHD_vW9tKBsaWvLPtQ/videos

各会場では、冒頭に農林水産省より、「和食」の保護・継承についての説明が行われました。「和食の保護・継承を考える 三世代意見交換会」について、「和食がユネスコ無形文化遺産のリストに登録されたことには、二面性がある。それだけの価値があると評価された反面、放っておくと遺産になってしまい、絶滅しかねないとも思う。私たちには、継承していく義務が課せられている。本日は、それぞれの世代に和食をどうやったら継承できるか、意見をうかがいたい」と、開会の言葉として述べました。

料理試食会では、意見交換会の各実施地域に根付いた郷土料理を地域の方につけていただき、地元在住の一般来場者の方々と試食を行いました。また、東京等で活躍するプロの料理人には地元食材をメイン食材として、自由な発想でオリジナル料理をつけていただき、実際にそれぞれの料理を通じて議論を行っていただきました。

意見交換会では、「和食の保護・継承について考える」をテーマに、各世代のそれぞれの視点からさまざまな意見が飛び交いました。

<意見交換会の結果>

◆皆さんが「将来に伝えたい和食」とは？

【全体傾向】

- 家庭で提供されるご飯、味噌汁、おかずという和食の基本的な献立に沿ったもの、食材の命等に感謝する心等将来に伝えたい「和食」として挙げる意見が多かった。

【地域別傾向】

- 地方部では、地域の伝統行事に関連した行事食を挙げる意見が見られた。
- 都市部、地方部を問わず、生産者や農業に関わったことのある者は、「和食」について具体的なイメージを明確に持っている傾向がうかがえた。

【世代別傾向】

- 各世代を通じ、将来に伝えたい「和食」として、カレーやラーメンなどのカタカナ料理を挙げる者はいなかったが、そのような料理でも、例えば食材が全て地域のものを使っている場合にはどうかと質問した場合には回答に窮する場面があった。

◆「和食」をまもり、はぐくみ、伝えていく上で、重要な役割を果たすのは誰か？

【全体傾向】

- 各地域、全世代を通して「和食」の保護・継承のためには、親（母親）が重要な役割を果たすと回答した者が多かった。

【地域別傾向】

- 都市部、地方部で回答に顕著な違いは見られなかった。

【世代別傾向】

- 年配の世代では、親（母親）に加えて、祖父母も加えた三世代で継承の取組をすべきと回答した例が見られた。
- 若者世代でも比較的意識の高い者は、自ら次世代に継承していきたいと回答する例が見られた。

◆若い方に「和食の担い手（お手伝いしてみたいな）」とさせていただくにはどんなこと（キッカケ）があるとよいか？

【全体傾向】

- 若者が「和食」を継承するきっかけとして、家庭や学校などで実際に和食を食べたり、作ってみる機会（実体験）があることを挙げる者が多かった。
- 「和食」を継承する意義について、正面から回答した者は少なかったが、意見交換でのやり取りを通じ、和食は、洋食と比較して近寄りやすい、地味、難しい、外食単価が高いなどのイメージを持っている傾向がうかがえた。

【地域別傾向】

- 都市部、地方部で回答に顕著な違いは見られなかった。

◆「和食が食べたい」「和食がフィットするシーン」とはどんな気持ちや状況の時か？

【全体傾向】

- 和食が食べたくなる状況として、季節毎の行事や食材の旬に触れた時を挙げる意見が見られた。その他、洋食を食べ続けたり、海外での生活をするなど和食を食べない生活をしばらく継続した場合に和食が食べたくなるとの意見もあった。

【地域別傾向】

- 地方部では、季節毎の行事や食材の旬に触れた時などを挙げる者が多く、都市部では、海外旅行など和食を食べない生活をしばらく継続した場合を挙げる者が多い傾向にあった。

【世代別傾向】

- 若者世代では、家では洋食中心の生活をしているという者も見られたが、そのような者でも上記のような場合には「和食」が食べたいという意見を出した者が多かった。

